

# 霊宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第148号

令和6年10月14日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>

## 利用案内

開館時間

10月1日～10月31日

8時30分～17時30分

11月1日～3月31日

8時30分～17時00分

■休館日 年末年始

(展示替えに伴う臨時休館あり)

■拝観料

大人 1300円

高・大学生 800円

小・中学生 600円

高野町に住居票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。  
(住所記載の証明書提示要)

■専用駐車場あり



「国宝 不動堂」の檜皮葺屋根の葺き替え作業風景。檜皮材は、檜の幹の表皮を薄く剥ぎ取り、形を整えられた後、防腐のために燻した竹釘や鉄釘を留め具とし、屋根木槓へ屋根の野地板にテンボよく打ち付けられています。

## 令和6年度 秋期企画展 「高野山と世界遺産」

令和6年10月19日(土)～  
令和7年1月13日(月・祝)

年末年始休館日 令和6年12月28日(土)～  
令和7年1月4日(土)

### 第148号 目次

- 秋期企画展のご案内……………2～3
- 収蔵品の紹介117……………4
- 博物館実習の報告……………5
- 特集高野山……………6～7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントを差し上げます。  
令和7年4月1日から、通年の開館時間が9時00分から17時00分までとなります。

令和6年度 秋期企画展

「高野山と世界遺産」



国宝 誓誓指帰（上巻） 金剛峯寺【期間限定展示：10月19日(土)～11月10日(日)】



重文 舞楽装束類のうち梅松文様水干 金剛峯寺

令和6年10月19日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

令和6年12月28日(土)～令和7年1月4日(土)は休館

前期 令和6年10月19日(土)～11月24日(日)

後期 令和6年11月26日(火)～令和7年1月13日(月・祝)

平成16年(2004)に高野山町石道と金剛峯寺境内が、『紀伊山地の霊場と参詣道』の一部としてユネスコの世界遺産に登録されて、今年で20周年となります。

そこで、今回の展覧会では、世界遺産にスポットを当てて、高野山の中でも世界遺産区域にまつわる文化財を展示します。

また、昔から高野山には全国各地から宝物が集まってきましたが、その中から、他の世界遺産ゆかりの深い文化財を展示します。国内では京都や奈良をはじめ、海外の世界遺産と高野山の関わりにもぜひ注目してご覧ください。

主な展示品

彫刻

- 宝冠釈迦如来坐像 金剛峯寺
- 千手観音菩薩立像(伝源義経守本尊) 金剛峯寺
- 筒型厨子入愛染明王小像 金剛峯寺

絵画

- 重文 伝熊野曼荼羅図 龍泉院【前期】
- 重文 一字金輪曼荼羅図 遍照光院【後期】



千手観音菩薩立像 金剛峯寺



筒型厨子入愛染明王小像  
金剛峯寺



重文 成身会八葉時絵厨子 金剛峯寺



重文 一字金輪曼荼羅図 遍照光院【後期】

■書跡

- 高野山絵図《万治元年本（1658）》 金剛峯寺
- 高野大師行状図画（大師行状記） 宝寿院
- 熊野曼荼羅図 西南院【後期】

国宝 聾瞽指帰（上巻）

金剛峯寺

【10月19日（土）～11月10日（日）展示】

国宝 紺紙金銀字一切経（中尊寺経）

金剛峯寺

【前後期展示替】

国宝 又統宝簡集109「高野山大湯屋釜鋳勘録状（断簡）」

金剛峯寺【前期】

国宝 又統宝簡集30「御室御所高野山御参籠日記」

金剛峯寺【後期】

【前後期展示替】

重文 高麗版一切経

金剛峯寺

重文 町石建立供養願文

金剛峯寺【前期】

■工芸

重文 天野社舞楽装束類のうち梅松文様水干

金剛峯寺

重文 成身会八葉時絵厨子

金剛峯寺

※期間中、一部展示替えを行います。  
※文化財の保存上、展示品が変わる場合があります。

今後の展覧会

冬期企画展

「密教の美術」

令和7年1月18日（土）～4月13日（日）

収蔵品の紹介 117

宝冠釈迦如来坐像

金剛峯寺蔵

桃山時代 天正18年(1590) 像高 106.0センチ



宝冠釈迦如来像



像内墨書

釈迦如来像は他の多くの如来像と同じく、装飾品を身につけない姿で表されます。ところが、宝冠璽瑠を身につけた釈迦如来像もあります。このような像を、一般的に宝冠釈迦如来像と呼び、禅宗寺院を中心に広く祀られています。宝冠釈迦如来像は、頭頂で髻を高く結び、宝冠を頂き、禅定印を結ぶ姿で表されます。今回紹介する仏像も、宝冠釈迦如来像の一つです。

この仏像の首の内側には墨書があります。墨書によると、天正18年(1590)に康正という仏師が造立したことがわかります。康正は、運慶の末流で、桃山時代から江戸時代にかけて、東寺(京都府京都市所在)や醍醐寺(同)などで、多くの仏像を造立、修復しました。京都国立博物館所蔵「本朝大仏師正統系図并末流」に康正の事績が記されており、高野山では、伽藍にある荒川経蔵の釈迦如来、大塔の四仏、大門の仁王、中門の二天を造つたことが載っています。このうち、荒川

経蔵の釈迦如来は天正18年の製作と記されており、像内の墨書と一致します。また、この「本朝大仏師正統系図并末流」には髪際高(額の髪の生え際までの高さ)が「二尺七寸(約81.8センチ)」と記されています。宝冠釈迦如来像の髪際高を計測すると約77センチと少し差がありますが、現状では今回の宝冠釈迦如来像と同一のものとされています。天正年間には、豊臣秀吉の信任を得た応其上人(1538~1608)による高野山復興が行われ、荒川経蔵も天正19年(1591)に復興されました。宝冠釈迦如来像も、この復興事業の一つとして造立されたと言われています。ちなみに、大塔などの他の仏像はその後焼失

しており、本像のみ現存しています。本尊として祀っていた荒川経蔵は、六角経蔵と現在は呼ばれています。平安時代、保元元年(1156)に鳥羽法皇の菩提のために、皇后の美福門院が一切経を奉納した建物です。この一切経は、重要文化財として現存しており、紺紙に金字で書写された經典です。奉納した際、供養料として荒川庄(現在の和歌山県紀の川市所在)という土地を寄進したため、この一切経のことを荒川経、経蔵のことを荒川経蔵とも呼びました。経蔵の本尊といえば文殊菩薩が多いですが、六角経蔵は、昔から釈迦如来像だったようで、鎌倉時代の僧、明恵が記したとされる『金剛峯寺巡礼次第』には「金色釈迦」が本尊と記されています。ちなみに、江戸時代後期の史料『紀伊統風土記』には快慶作と伝わる説法する姿(おそらく転法輪印を結ぶ)の釈迦如来像が本尊だったとあるので、宝冠釈迦如来像が本尊だった期間は、長くとも天正19年~江戸時代後期頃だったでしょう。とはいっても、現存する本尊を別にして、新たな本尊を祀ることがあるでしょうか。謎は深まるばかりです。

(研谷昌志)

博物館実習の報告

この度、令和5年度に引き続き、令和6年度も、大学で博物館学芸員資格を取得するための「博物館実習」を行いました。

本年度は、高野山大学の大学生2名・科目履修生1名、合計3名を受け入れ、令和6年8月20日(火)から23日(金)までの4日間、霊宝館内においてのカリキュラムを実施しました。

各日のカリキュラムの詳細は、以下のとおりです。

20日の午前は、オリエンテーションののち、大森照龍霊宝館長による絵画、書跡、彫刻、工芸品、考古資



①文化財に関する講義



③書跡の取り扱い



②絵画の取り扱い



⑤仏像の取り扱い



④彫刻の運搬



⑦書跡の調査 (調書作成)



⑥紐箱の取り扱い

料の歴史的特徴、製作上の構造、取り扱い方法、高野山の信仰背景などの講義を行い、その後、平成大宝蔵と展示室(本館・新館)の施設見学。午後からは、絵画と書跡を用いて、取り扱い実習を行いました。

21日の午前は、彫刻の講義、取り扱いと梱包実習、書跡の調書作成方法の解説。また奥之院の発掘調査で出土した考古資料の解説、取り扱い実習を行いました。

午後からは、小宝蔵の施設見学、収蔵する考古資料の解説を行い、本館映像コーナーでは文化財解説方法の視聴、また本館学芸員による世界遺産登録20周年記念ミュージアムトークを見学しました。その後、絵画と書跡の取り扱い方法の復習、工芸(金工品)の講義と取り扱い実習を行いました。

22日の午前は、漆工品の講義と取り扱い方法の解説、取り扱い実習と絵画の取り扱い方法の復習を行いました。

午後からは、板木の講義と板木を用いて湿拓の拓本実習を行いました。

23日の午前中は、燻蒸作業の準備と、書跡、絵画の文化財運搬方法の解説と運搬実習、また書跡の取り扱い方法の復習。

午後からは、書跡の調書作成を行いました。

4日間という短期間でしたが、実習生には、国宝や重要文化財など、普段は展示ケース越しで見ることのできない、さまざまな種類の貴重な文化財を実際に手に取り、文化財の取り扱いの実技を学んでいただきました。

この実習体験を進路選択、今後の人生に生かしていただくことを心より願っています。

(鳥羽正剛)

特集高野山

全国に広がる町石

堺市博物館学芸員 海邊 博史

はじめに

町石とは、高野山内の道の傍らにある高さ3m前後の石塔です。参詣の行き帰りに目にされた方も多いでしょう。高野山には山内に三六基、また麓からの参詣道(町石道)に一八〇基、合計二一六基あります。町石は、寺社への参道など道法一町(約一〇九m)ごとに町位を記入した石造の標識兼卒塔婆で、多くが仏教的信仰に関係しており、仏名の種子などを刻むことが一般的です。高野山では元は木製だったようですが、鎌倉時代に高野山遍照光院の覚敷の発願・勧進により、石製の町石が文永二(一二六五)年から約二十年かけて造立されました。造立者は一般の民衆に加えて、後嵯峨天皇、藤原資季、北条時宗、北条政村、安達泰盛といった、当時の権力者が多数関与した大きな事業でした。高野山町石の分析は、これまでの『霊宝館だより』(第一四四号、第一四六号)で諸先生が筆を執られています

で、小稿では高野山以外の各地にある中世町石について記してみたいと思います。

町石の形を考える

町石は町位を明示、すなわち残りの距離を知らせることが第一の目的ですので、形は必ずしも統一する必要がありません。実際に高野山町石と異なった形のものも各地に存在します。ここでは町石の形について考えてみます。

記録に残る中で最古の町石は、大阪府箕面市の勝尾寺町石(宝治元・



①五輪塔形 (高野山外 95)



②尖頭角柱形 (鶴林寺)

一二四七年)です。形態は五輪塔形で、高野山町石と何らかの繋がりが推測できます。次に建てられた町石は、三重県伊賀市の廃補陀落寺町石(建長五・一二五三年)が自然石形、そして高野山町石(文永三・一二六六年)が五輪塔形、京都府京都市の上醍醐町石(文永七・一二七〇年)が笠塔婆と、初期の町石の形はさまざまで一定していません。そのような中、高野山町石が造立されましたが、他の町石造立と比べ

てはるかに大規模プロジェクトであったためその影響力は大きく、それ以降の町石造立にさまざまな影響を与えました。特に影響を受けたのが形です。高野山町石造立以降、全国三十一カ所で町石が造立されました(中世に限る)。形ごとの内訳では、五輪塔形(①・五輪卒塔婆形含む)一三例、尖頭角柱形(②)六例、笠塔婆形(③)五例、板碑形(④)四例、自然石・その他(⑤)三例となっています。この中で、尖頭角柱形は徳島県の遍路道と大阪府能勢町の廃月峰寺町石のみに偏在し、板碑形は一五世紀後半以降に出現する新しい形態ですので、ここでは五輪塔形と笠塔

婆形について考えます。

五輪塔形は、造立初期から導入され、初期の一三世紀から一四世紀に限っても、その多くで多く採用され形になります。同時に地域を問わず採用されており、町石の主流な形と評価できます。それに対して笠塔婆形は上醍醐町石が初出となります。その後も断続的に採用される形ですが、上醍醐町石と比較的初期の滋賀県甲良町の西明寺町石（元応二・一三二〇年）以外は、そのすべてが現在の兵庫県に該当する摂津・播磨で採用され、特定の地域で好まれた形と解釈できます。すなわち高野山町石造立以降は、町石の形は他の形と併存しつつも五輪塔形がスタンダードだと認識されていたようです。

高野山町石造立の意味

次に高野山町石以降における町石造立の動向について整理してみま



③笠塔婆形（一条寺）



④板碑形（倉治町石）



⑤自然石形（鹿補陀洛寺・山路裕樹氏撮影）

す。高野山町石が造立された文永二（一二六五）年以降、各地で町石造立がブームとなり一気に町石造立が広がったという訳ではありません。高野山町石造立とほぼ同時期に上醍醐町石が造立されましたが、それ以降は一四世紀に入るまで、約三十年間は造立されていません。さらに一四世紀前半も三カ所で造立されませんが、奈良県御所市の安位廃寺以外は畿内から比較的離れた場所です。しかも高野山町石とは形が違う笠塔婆形です。一四世紀中葉は六カ所で造立されますが、淡路の二カ所（兵庫県南あわじ市の論鶴羽神社、金剛寺）と阿波の四カ所（徳島県阿南市の太龍寺道、かも道、一宿寺、勝浦町の鶴林寺道）は、ほぼ同じ年代かつ同じ形であるため、同じ造立主体が独自で活動した可能性があります。高野山町石造立から百年近く経った一四世紀後半から、数が増加し町石

造立がようやく本格化したと評価できます。この空白期間が何を意味しているのか、まだよく分かっていません。町石造立の意義を考える上でも、今後の大きな課題です。

おわりに

高野山町石と同じ五輪塔形の町石が各地で製作・分布するのはなぜでしょう。そのヒントとなるのが高野山町石の形態の多様化です。高野山町石は同じ石材かつほぼ同時期の製作、形も一見すると同じ五輪塔形をしています。しかし、空風輪の型式は詳細に観察すると計一十種類に分けることができます。すなわちそれだけ多くの形に細分できる一方、異なる石材でも同じ型式の町石が製作されることもあります（詳細は『霊宝館だより』第一四四号 佐藤重聖、先山徹両先生の論考をご参照ください）。これは町石造立にあたって、

採石も加工も複数の石工集団が携わっていた可能性を示唆しています。あちこちから採石された石材はいったん同じ場所（おそらく高野山の麓の紀の川中流付近）に集積され、そこに各地から石工集団が集められ、町石を量産化する体制が構築されたと考えられています。これまでにない大規模事業として町石造立に取り組む、従来の中世石造物生産の枠組みとは全く異なる巨大プロジェクト、それが高野山町石造立であったと理解できます。

現在の高野山ではサイン表示や交通看板があふれており、町石は標識としての役割は終えました。しかし道端に佇む町石は、歴史の証人として今もなお様々なことを教えてくれます。じっくりと町石を眺めて、一味違った高野山の魅力を見つけてください。

# 高野山霊宝館からのお知らせ

## ◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記のとおり開催しました。

- 5月18日(土) 講師 高橋秀輝師
- 6月1日(土) 講師 成松昇紀師
- 7月6日(土) 講師 高井知弘師
- 8月3日(土) 講師 才田亮舜師
- 9月7日(土) 講師 西野寛山師
- 10月5日(土) 講師 栗田寛康師



ミュージアム法話開催風景 (西野寛山師)

## 今後の開催予定

- 11月9日(土) 講師 辻 雅榮師
- 午後1時より約45分

## ◎世界遺産高野山登録20周年記念事業

### ●国宝不動産屋根葺替工事 現場見学会

現在屋根葺替工事(檜皮葺)を行っている国宝不動産の工事現場見学会を、(公財)和歌山県文化財センター職員の見学により実施しました。

- 9月21日(土)
- 高野山霊宝館友の会会員・参加会

## 会員を対象

- 9月28日(土)、10月12日(土) 一般小・中学生とその保護者対象
- 10月1日(火) 橋本市立清水小学校6年生対象
- 10月2日(水)・4日(金) 高野山小学校4年生・6年生対象



国宝 不動産屋根葺替工事現場見学会の開催風景 (9月21日)

## ●ミュージアムトーク

7月21日(日)、8月21日(水)、9月21日(土)に、当館職員によるミュージアムトークを開催しました。



ミュージアムトーク開催風景 (8月21日)

## ●夏休み特別イベント「親子で発見! 高野山こころの探求」開催

7月27日(土)、28日(日)、小学生を対象に、大森照龍館長による文化財解説を実施しました。

## ○貸出情報

- 龍谷大学 龍谷ミュージアム 秋季特別展「眷属」 令和6年9月21日(土)~11月24日(日) 国宝附属 指徳童子像・阿耨達童子像 (八大童子立像のうち) 金剛峯寺

## ●中之島香雪美術館

特別展「法華経絵巻と千年の祈り」 令和6年10月5日(土)~11月24日(日) 重文 法華一品経 二巻 金剛峯寺

## ◎空海・密教を自宅で学べる 『高野山大学 社会人向けコース』



高野山大学コース広告

高野山大学では、社会人の皆さまの人生のさらなる学びを応援するため、オンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。空海、マンダラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HP、またはお電話にてご相談ください。



大学 HP QRコード

## 友の会 会員募集

### 〈年会費〉

- 一般会員 (個人) 3,000円
- 賛助会員 (法人) 30,000円

キャッシュレス決済で手続きが可能になりました。入会希望の方は下記から申し込みいただくか、霊宝館までお問い合わせください。

会費ペイ会員登録用URL・QRコード [https://www.kaihipay.jp/forms?form\\_code=9807367488232707](https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707)

